

じっくり心をこめて

スロー フード

64



らっきょうのサラダ

今回は、6月5日に行われた「食生活改善推進員協議会の創立30周年記念行事」で調理した一品を紹介します。

らっきょうはサラダや炒め物などに入れてもおいしいです。たまねぎ等と同じ風味なので、代用して使えます。

《今月のご紹介》

関川村食生活改善推進員 の皆さん

材 料 (4人分)

- ・らっきょう 20粒 ・ピーマン 2個
- ・きゅうり 1本 ・にんじん 50g ・塩 少々
- ・さけるチーズ 1/2本

作り方

ピーマン、きゅうり、にんじんは細いせん切りにする。せん切りにした をボウルに入れて塩を少々ふる。さけるチーズは細かくさき、半分の長さに切っておく。らっきょうは薄切りにする。

にらっきょうを加えてよく混ぜる。チーズも加えて混ぜる。しばらく置いて味がなじんだら器に盛る。



6月5日に行われた「食生活改善推進員協議会創立30周年記念事業」での調理のようす。

せきかわ文芸

短歌

天安門万里の長城兵馬備梅雨の空ぬけ
中国の旅

佐藤 庄七
(愛広苑)

かたばみ短歌会作品

峡深き奈良井の宿の椀の店つるしの光り店
先に照る

山口 藤枝

年ごとに深みし老いの立つ畑はピーマン出
荷の頃も遥かに

須貝 恵美

滑り込む光のごとく風のよう戸に添えて入
る桜花びら

小池 啓子

これぞこの大人の歌と聞き惚れる秋元順子
のおりなすドラマ

渡辺千恵子





三十年の長きにわたり自然公園指導員を努めた渡邊龍吉さんは昭和七年一月十五日関川村上関に渡邊浩作の二男として生まれた。長じて父浩作の弟子となり大工の修業を積み、渡邊邸の

近・現代 関川郷の人びと

執筆者：佐藤貞治（「せきかわ歴史とみちの館」館長）

渡邊龍吉

新座敷や湯沢・高瀬の主な温泉旅館の建設にたずさわった。昭和二十三年十六歳の時友人と二人で初めて杵差岳に登頂しテントなしで這松の蔭で夜営した。この時から山に取りつかれ頻繁に入山するようになった。そして昭和三十八年、関川村山の会に、翌年日本山岳会に入会し大いに活躍した。

また、無類の山好きと大工の技術を生かして、杵差避難小屋、梁山泊、大熊小屋、杵差避難小屋、梅花皮小屋の建設に力を尽くし多大な貢献をした。

昭和四十九年六月から三十年の長きにわたり、環境省自然公園指導員を努め、飯豊連峰を訪れた人々に対し、実地で培った豊富な経験に基づき安全で有意義な山旅のための指導を続け、自然保護に係る啓蒙及び登山者の安全に多大な貢献をした。

山岳遭難救助活動としては昭和四十二年杵差岳で女子大学生を救助したのを始め十三回も出動し、救助・搜索・収容に尽力した。また巡視活動の傍ら、避難小屋や指導標などの施設の維持管理に努め、自然公園の利用促進及び利用者の安全に多大な貢献をした。また飯豊連峰を中心に活動する東北の山岳界にあつて、後進の育成、指導にあた

つた功績も大きい。すみわけ理論で有名な生物学者今西錦司博士（京都大学教授や岐阜大学長を歴任）は日本山岳会々長も努めた登山家であった。手つかずの自然が残る飯豊連峰に魅せられ幾度か訪れ登頂した。今西博士は渡邊龍吉さんの温厚で実直寡黙な人柄を愛し飯豊連峰を始め燧ヶ岳など新潟県や福島県の山に登る時は必ず声をかけ同行させた。特に飯豊本山、浅草岳、日本平山、日中飯森山など一等三角点の山を重点的に登った。また卯年には光兔山にもお供した。今西錦司博士に同行したのは十四回に及び登った山は二十八山を数えた。

山の縁で今西錦司の文化勲章祝賀パーティーや周回登山記念パーティーにも招待された。今西は平成四年六月十五日九十歳で没し、龍吉さんは葬儀に参列し博士の冥福を祈った。

渡邊龍吉さんは自然環境活動に尽力した功績により平成十四年環境大臣表彰、平成十七年藍綬褒章を受章した。

初代
渡邊浩作 — 敬市
龍吉

せきかわ文芸

関川俳句の会作品

母の日や背丈に余る百合届く
渡辺しづい

登り来て春日城趾に風薫る
渋谷 くに

雨音の又ひとしきり梅雨近し
南 セツ

父の日や遠き子よりの宅急便
五十嵐貞子

夏めくや犬と日陰に憂さ忘れ
佐藤 ノブ

広々と駅舎の裏や青田風
青木 慶一

せきかわ川柳会作品「涙」、調子」

苦勞した涙は人を丸くする
南 セツ

いろいろの涙に出合い昭和生き
平田 千恵

ファンルーム湯場の裸に嘘がない
佐藤 ノブ

此の頃は体調最高腹時計
渡辺しづい

結婚式バージンロード目が潤む
本間 イミ